

柔道のマダガスカル代表選手が福井県に来られました！

12月3日(土)、4日(日)東京で行われた柔道の国際大会(グランドスラム東京大会)に出場したマダガスカル代表のランジリアナスワ・ルバ・マハイスア選手と、コーチであり、JICA 青年海外協力隊員の岩堀 睦宗さん(令和3年12月より柔道でマダガスカルに派遣中)が福井県国際交流協会を訪れました。

ランジリアナスワ選手は今回の大会の前に実施されたアフリカのジュニア大会で第3位という成績を収め、マダガスカル大統領から功労賞を授与されています。

また、コーチである岩堀さんも大統領から功労賞を授与されました。

今回の大会もコーチとして帯同していた岩堀さんが、福井県のご出身ということから、ランジリアナスワ選手と12月5日から25日まで岩堀さんの母校である福井工業大学の柔道部との合同合宿に参加されるため福井に来られました。



ランジリアナスワ選手は合宿で福井に滞在中、同年代の大学生の皆さんと一緒に練習をする他、子供たちの練習にも参加して交流されたそうです。

合宿に参加して、日本の柔道の設備が素晴らしいこと、みんなが礼儀を重んじていることに大変感銘を受けたそうです。

次のパリオリンピック出場を大きな目標に、国内外の試合に出場し、オリンピック出場の権利を獲得するために、この合宿での経験を活かして、これからもたくさん練習しなければいけないと話されていました。

今回、ランジリアナスワ選手は初めて日本に来られたそうです。福井ではマダガスカルでは見られない雪が見られるかもと聞いていたので、とても楽しみにされていたそうです。

食事について、マダガスカルは日本と同じく主食がお米だということで、日本食を食べることにはあまり抵抗がないそうです。ランジリアナスワ選手は福井に滞在中、日本食も積極的に食べてみているそうで、梅干しや納豆にも挑戦したそうです。その中でも唐揚げと昆布の佃煮がとても気に入ったとおっしゃっていました。



また岩堀さんは、今年4月に福井県が行っている海外ボランティア支援事業を利用して県民の皆様から使わなくなった柔道着を募りました。マダガスカルでは柔道着は手に入りやすく、柔道を習っている子供たちを中心に柔道着が必要と感じたからです。



【支援物資で送付した柔道着を着ている子供たち】



県民の皆様のご厚意により、100 着近い柔道着が集まり、支援物資としてマダガスカルに送ることができました。マダガスカルに届いた柔道着は、現地の柔道連盟を通じて各道場に配布され、子供達などに配布されたそうです。

岩堀さんは、柔道着を寄付して下さった県民の皆様、集めるためにご協力いただいた福井県柔道連盟様と送付作業を行った福井県国際交流協会、福井県に感謝を述べられました。

最後にランジリアナスワ選手に若狭塗り箸がプレゼントされました。日本に滞在中は、お箸でご飯を食べる練習もされているそうで、大変喜んでいらっしゃいました。

ランジリアナスワ選手の今後ますますのご活躍を応援しています。



左から(公財)福井県国際交流協会 五十嵐専務理事、福井県柔道連盟 山本様、ランジリアナスワ選手、岩堀さん、福井県国際経済課 湯川課長